



花の中央が半球状に盛り上がっている。
大きな黄色の花びらは垂れ下がる。



湿気を好み、周囲の植物を締め出して大群落を形成する。花期は7月～10月。



草丈は50cm～3mにも伸びる。



葉は深裂したギザギザの形をしている。

北米原産。草丈が50cm～3mにも伸びる大型の植物で、道路沿いや河原などに広がる。湿気を好み、大群落を成して他の植物を締め出してしまう。花はキクイモ(菊芋)と似ている。中央の半球状に盛り上がった部分にたくさんの筒状の花があり、大きな黄色の花びらが垂れ下がるのが特徴。(多年草)

特 徴

花：中央の半球状の盛り上がり花の集まり(筒状花)。大きめの黄色の花びらが垂れ下がる。

花期は7月～10月。

葉：羽状に5～7深裂した、ギザギザの葉をしている。

茎：50cm～3mにも真っ直ぐ伸び、太くて丈夫な茎がある。

根：地下茎がよく発達し、そこから繁殖する。地下茎から種の発芽を抑制するアレロパシー物質を分泌して、他の植物のみならず、自らの種子さえ近くに生えさせない特殊能力を持つ。

生 態

7月～10月に大きな黄色の花を咲かせる。2mを超える大型の草で、地下茎からは発芽抑制物質を分泌して、他の植物はおろか自らの種子さえ近くに生えさせない。その地下茎から上に伸びるので、周囲はオオハンゴンソウに埋め尽くされる。

拡散の原因

明治時代に園芸植物として導入され、「ワイルドフラワー」と呼ばれる緑化の材料として使われ、野生化した。

被 害

周辺にある他の植物を締め出してオオハンゴンソウだけで独占してしまう。農地や庭などに侵入されるとやっかいである。

駆除方法

花の部分と地下茎を除去する。

花期には根元を持って引き抜き、ビニール袋に入れて焼却処分するか枯死させる。

開花の後半期から種子をつけた時期は、種子を拡散させないようにビニール袋に入れて焼却処分する。

地下茎で増えるため、地上部分を刈り取っただけでは生え続ける。しかし、数回に渡って早い時期に地上部分を刈り取り続ければ、地下茎を弱らせる効果がある。

オオハンゴンソウ属(ルドベキア)

オオハンゴンソウ属には30種類の仲間があり、ルドベキアという名で園芸種として市販されているものがある。いずれも輸入にあたっては種類名証明書の添付が必要とされている。現在、特定外来生物に指定され、規制や防除の対象になっているのはオオハンゴンソウ一種類のみ。

尚、特定外来生物に指定されていない種類であっても、アラゲハンゴンソウやオオミツバハンゴンソウなどは野生化が確認されている。



アラゲハンゴンソウ（キヌガサギク）



オオミツバハンゴンソウ